

「時短営業、要望に対応」

ローソン社長 24時間営業巡り

コンビニエンスストアの24時間営業を巡って、ローソンの竹増貞信社長は、東京都内で7日開いたメディア懇親会で「時短営業の要望があれば、対応していく」と話した。フランチャイズチェーン（FC）加盟店の要望に応じて営業時間の短縮も個別に認めるという従来の方針を維持する。一方で、竹増社長は「24時間営業について決断するタイミングではまだない」と話し、終日営業が原則という点は変わらないとした。ローソンは全国に約1万4000店を展開するが、このうち40店で加盟店オーナーと合意の上で時短営業をしている。

またミニストップの藤本明裕社長は同日、都内で開いた商品政策発表会で「24時間営業をやめるときは、ミニストップの看板がなくなるときだ」と話し、終日営業を維持する方針を示した。

■広島市の旗艦店 5日着工 アンデルセンが建て替え

アンデルセン・パン生活文化研究所（広島市）は、解体工事を進めている旗艦店「広島アンデルセン」を新店舗に建て替えるため、5日に着工すると発表した。新店舗は地上5階建てでベーカーリーフロアに加えて約150席のレストランや、ウエディングなどで使えるパーティールームも設ける。2020年8月の開業を目指す。

新店舗の延べ床面積は約3400平方メートル。店内商品を飲食したり、市民の憩いの場として活用できたりする「ヒュッグパーク」を1階のベーカーリーの屋外に設ける。「ヒュッグ」はデンマーク語で「心地いい空間」を意味する。2階にレストラン、3階にはイベントフロアを設ける。

野菜ぜんぶすり潰し

ミツカンが新ブランド

ミツカングループは、野菜を丸ごとすり潰した新素材を使った商品を3月から販売を始めた。ブランド名は「ZENB（ゼンブ）」で、専用の販売会社を設立しており、通販サイトも立ち上げる。

1日から「ミツカンミュージアム」（愛知県半田市）でペースト5種（コーン、ピーズ、枝豆、えんどう豆、パプリカ）を1瓶（100グラム）1620円で売り出した。

5日からは「ZENB サイト」で、スティック16本のセット商品（5184円、送料別）と、ペースト5種を取り扱う。ZENB商品の販売会社ゼンブジャパン（同市）は2018年11月に設立。新素材の価値観も併せて伝えられる独自の販路開拓を目指す。



—日経MJ2019.3.8—

4階、5階は4つのパーティールームを備え、歓送迎会や展示会などのニーズに応える。2階3階部分は旧店舗の建物デザインを踏襲する。被爆建物である旧店舗の外壁の一部切り取り、新店舗の2階外壁の一部に使用する。旧店舗は戦前に建てられ、被爆した銀行の支店を改築したもの。本通商店街に残る唯一の被爆建物として継承する。

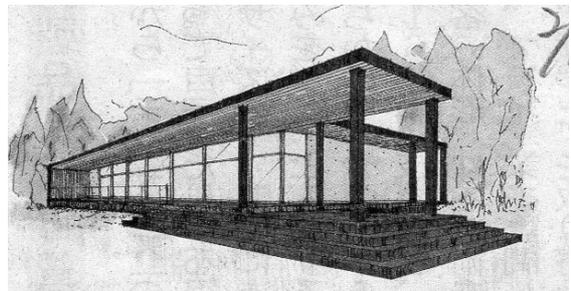
—日経MJ2019.2.1—



ピクルス、埼玉・飯能で

漬物製造大手のピクルスコーポレーションは、埼玉県飯能市で健康・発酵・乳酸菌のテーマパーク「OH!!! 健康・発酵・in 飯能」を建設する＝写真はイメージ。2020年3月に開業する。500年以上の歴史がある能仁寺の林を開発し、漬物などの物販や発酵がテーマの飲食店を設ける。入場は無料で、ステージのある多目的広場も設ける。初年度は集客30万人、売上高7億円が目標。建物は地元の木材などを使った木造を基本に4棟を建設する。

発酵食品の テーマパーク



ぬか漬けやキムチ、乳酸菌などの勉強会や料理教室を開く。能仁寺と連携して座禅や精進料理の体験コースも用意し、外国人にPRする。

—日経MJ2019.2.13—